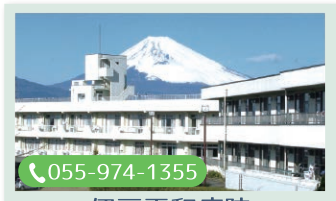


伊豆函南病院
055-974-0121
精神科・神経科・心療内科
精神科訪問診療・精神科訪問看護



伊豆平和病院
055-974-1355
内科・神経内科・リハビリテーション科
皮膚科・訪問リハビリ



村上記念病院
0254-52-1229
内科・泌尿器科・リハビリテーション科
人工透析センター・訪問リハ・通所リハ



優っくり(1階)
0254-53-1111
看護小規模多機能型居宅介護



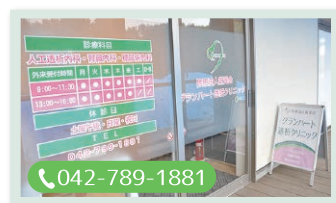
サニーブレイスかなみ
055-974-3811
相談支援事業所・就労支援事業所



つながり
055-970-2938
高齢者グループホーム



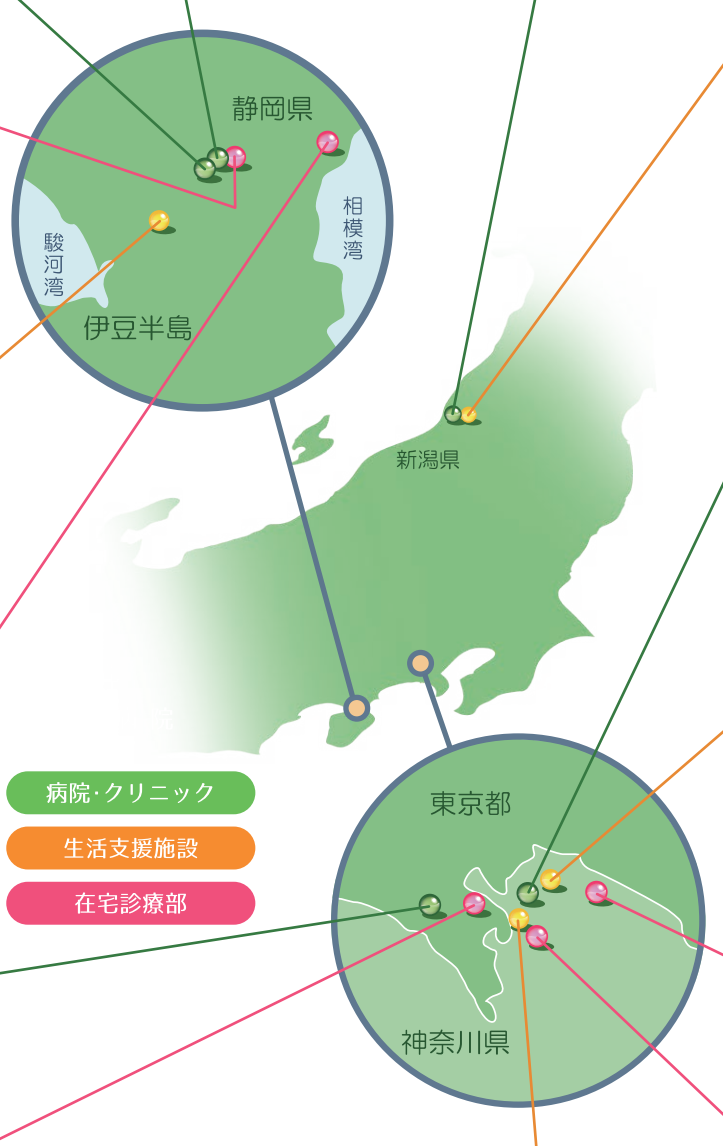
熱海訪問看護ステーション
0557-85-1100
訪問看護



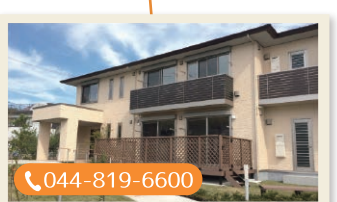
グランハート透析クリニック
042-789-1881
人工透析内科・腎臓内科



町田内科クリニック
042-860-5320
内科/訪問診療 往診



- 病院・クリニック
- 生活支援施設
- 在宅診療部



みのりの家 麻生
044-819-6600
高齢者グループホーム



くるみの家
044-952-9088
障がい者グループホーム



みのり訪問看護ステーション高津
044-750-9012
訪問看護



みのり訪問看護ステーション百合ヶ丘
044-969-7172
訪問看護・居宅介護支援事業所

生田病院 〒214-0037 神奈川県川崎市多摩区西生田 5-24-1
TEL:044-966-2151 FAX:044-955-4314

伊豆函南病院 〒419-0107 静岡県田方郡函南町平井 1694
TEL:055-974-0121 FAX:055-974-1503

村上記念病院 〒958-0034 新潟県村上市松山 204-1
TEL:0254-52-1229 FAX:0254-52-3556

伊豆平和病院 〒419-0107 静岡県田方郡函南町平井1690-13
TEL:055-974-1355 FAX:055-974-0026

HEART NEWS

2018.1
No.11

相談支援事業所 サニーブレイスかなみ

「サニーブレイスかなみ」は
就労支援事業と相談支援事業を併設しております。

障がいのある方が、住み慣れた地域で安心して暮らすことができるよう、地域の関係機関と連携しながら、障がいのある方やそのご家族などのご相談をお受けし、支援を行っています。お気軽にご連絡ください。

TEL:055-974-3811
http://www.shinkohkai.jp/sunny/



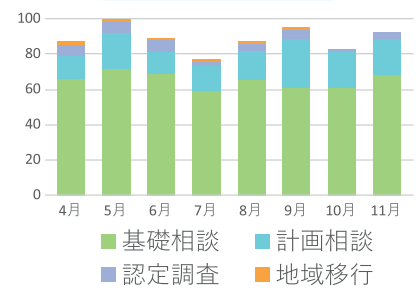
事業所から見える富士山

相談支援事業所の業務

当事業所の業務内容は障がい者の方を対象に、相談援助や「サービス等利用計画書」作成、またサービスの利用開始や更新時の認定調査、長期入院や入所の方に、地域での生活に向けた支援をする、地域移行支援事業も行っています。

- 基礎相談 (委託相談) Basic consultation
函南町にお住まいの障がい者の方(主に精神障害)を対象に、生活の困り事などの相談援助を行います。
相談方法:訪問・来所・同行・電話・メール・支援会議・関係機関と調整など。
- 計画相談 Planning consultation
障がい福祉サービスを利用している方を対象に、「サービス等利用計画」を作成します。作成後は定期的な面談(モニタリング)を行い、計画の振り返りを行います。
- 障がい支援区分認定調査 Investigation
函南町にお住まいの方を対象に、障がい福祉サービスの利用開始、または更新時に認定調査を行います。
- 地域移行支援事業 Regional transition
長期入院や入所の方を対象に、地域での生活に向けた支援(月2回以上の訪問支援・住まいの確保や生活準備の外出同行など)を行います。

平成29年 相談実績件数



相談支援事業所連絡会の様子

相談支援事業所では、専門のスタッフが、地域で暮らす障がいのある方及びそのご家族、障がいのある方のご支援者を対象に、住み慣れた地域で自分らしく安心して暮らしていけるよう、不安や心配ごとの解決をお手伝いしています。
ご本人、ご家族、通院先、サービス事業所等と連携して支援チームづくりを行い、生活全般をサポートしています。

<<相談事例>>

通院先である伊豆函南病院と連携しながら、利用者さんへの支援を行っています。
高齢者家族と同居の女性 統合失調症
就労継続支援B型事業所サニーブレイスを20年以上利用してきましたが、両親が高齢になり、本人の体調の変化やお薬の管理まで目が届かなくなってしまいました。本人はもともと体調に波があるうえ加齢による体調の変化も出てきています。通院中に体調の変化や薬の服用に問題があれば、通院先である伊豆函南病院に連絡して助言頂きながら支援を考えます。このような、相談支援事業所・サービス事業所・医療機関の連携による支援はたくさんあります。

利用者さんの生活背景や状況に合わせて、柔軟な対応と支援を行っています。
生活保護を受け独り暮らしの女性 統合失調症
3年半前、通院先から本人家族が困窮状態で通院もままならない状態になっていると支援の依頼を受けました。生活保護申請の支援を行い、世帯分離で生保が認められ、アパートで一人暮らしをすることになりました。アパート確保・転居・生活の準備の支援を行い、掃除や整理整頓が苦手なことで、障害福祉サービスのヘルパーさんの家事援助支援を週2回利用して、生活環境は維持できている状態です。気分や体調に波があるため、不調になると足腰に痛みが出て動けなくなってしまいます。痛みは整形外科的な要因もあるがメンタルの要因が強いとわかり、訪問看護を利用します。訪問看護師さんに健康維持のための助言やメンタルのサポートを受けています。

新光会では障がい者相談支援事業所を生田病院に併設する計画があります。今後とも相談者に寄り添い支援できる体制を整えてまいります。

生田病院

精神科急性期治療病棟の一コマ

季節に合わせたレクリエーションで患者さんと楽しい時間を共有。

私たちの病棟は、精神科急性期治療病棟です。単独で院内散歩に行くことができる患者様も入院されている一方で治療導入期で処遇が制限されている方も多く入院されています。作業療法が行われたり病棟ホールではTV鑑賞もできるようにはなっていますが、病棟生活は単調で変化に乏しいため、楽しい時間を増やして季節感を感じてもらうために月に1度季節に合わせたレクリエーションを行っています。

レクリエーションの日は、ゲームや職員のコスプレがおこなわれ、食事制限が必要な患者様も美味しいものが食べられることもあり、予定が貼りだされると患者様は、その日を楽しみにして退院の時間をずらしてしまわれるかたもいらっしゃるほどです。



Ikuta Hospital

伊豆平和病院

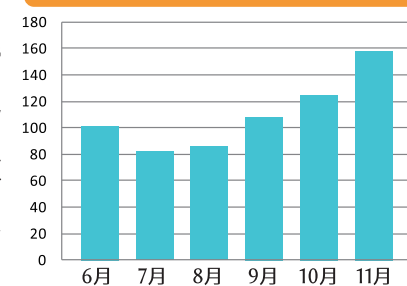
Izu-Heiwa Hospital

訪問リハビリについて

当院で実施している訪問リハビリテーションにつきまして、利用者さまの増加にとまない月当たりの件数も伸びてまいりました。地域のケアマネージャーさんや他の事業所の方との交流も積極的に行い、多くの方に当院のリハビリを知っていただけるよう取り組んでいます。

地域のみなさまに信頼される病院となるよう、今後も継続して努力してまいります。

訪問リハビリ実施件数の推移



新館建設について

今秋開設予定の新館につきまして、現在杭打ち作業が順調に進んでおります。昨年内には杭打ち作業が終了し、新年からは建物の躯体の工事が始まっております。工事が本格的になり、次第に新たな建物の形が見えるようになってきました。職員一同完成を楽しみに、日々の工事の進捗を見守っております。また新館の情報を特設サイトにご紹介しております。そちらも併せてご覧ください。

新館棟特設サイト

<http://www.shinkokhai.jp/newheiwa/>



伊豆函南病院

Izu-Kannami Hospital

院内医療安全研修会 院内医療安全研修会を行いました。

看護業務を行う際、いかにカルテ記入が重要なのかといったテーマを外部研修会へ参加された看護職員さんからのフィードバックや、患者様にお薬を飲んでもらう際の基本的な手順のおさらい、嚥下障害対策・嚥下を防ぐ際の食事介助の仕方を看護部長より説明いただきました。

多方面から情報を収集したのち、職員全体で少しでも患者様の危険を未然に防げるよう、情報を共有できたとても貴重な時間となりました。



村上記念病院

Murakami Kinen Hospital

村上記念病院 ホームページリニューアル

10月末、村上記念病院のホームページが新しくなりました。現場スタッフが原稿を作成し、ページ構成も話し合っ分りやすいように工夫しました。また、採用情報ページや部門紹介ページにオリジナル動画を掲載し、より当院を身近に感じていただける内容になっています。(動画はYouTubeでもご覧いただけます。)今後も院内情報や求人情報等、随時更新しますのでぜひご覧ください。

QRコード



YouTube



認知症「キャラバン・メイト養成研修」を修了しました。

今年度、法人全体で「認知症サポーター講座」職員全員受講に取り組み、当院でも「オレンジリング全員取得」を達成することができました。そしてこのたび、当院のリハビリスタッフ3名が「キャラバン・メイト養成研修」を修了し、「認知症サポーター講座」の講師である「キャラバン・メイト」になりました。

今後は、地域の方々を対象とした「認知症サポーター講座」も企画し、認知症の正しい知識を広めたいと考えています。自分や家族だけでなく、同じ地域の方が認知症になっても安心して生活できる地域づくりを目指し、職員全員が「認知症サポーター」として地域を支える病院になれるよう、努めてまいります。



平成28年度

新光会
チャレンジ

部署別目標

生産性
向上

アピール
ポイント

人材育成

Challenge!!

部署別目標とは？ 当法人の病院・施設をより良いものにするために、「生産性向上」「アピールポイント」「人材育成」の3つの柱を中心に、各病院・事業所の方針に則って目標設定をしています。決めた目標は1年を通してチャレンジし、その間3ヶ月に1度進捗を報告・共有し、達成度を上げます。その部署別目標をここでご紹介します。

伊豆平和病院

Challenge!!

伊豆函南病院の看護部と合同で、職種、経験に応じ

少数の職員を集め内容の濃い教育を実施

人材育成 看護部



当院は今まで研修の参加率が少なく、院内での全体研修でも参加率が50%に満たない状態でありました。看護部では、全体ではなく職種、経験に応じ少数の職員を集め内容の濃い教育を実施することが良いのではないかと考え、同法人の伊豆函南病院看護部と意見交換を行い、保有資格や今まで受けてきた教育に差がある介護職員に焦点を当て、合同で研修を実施していくことを部署の目標といたしました。

研修目的として、両病院の交流を深めること、5年目以上のリーダー格の底上げを図ることとし、「介護倫理と原則」「リーダーシップ」「事例検討2回」「アサーティブ」を実施いたしました。開催は4月から2カ月に1回、同じ研修を2回ずつ実施いたしました。最初は座学を行ったため質問に対して回答する形式が多かったのですが、事例検討を両病院の職員をミックスしたグループで実施した際には、予想以上の活発な話し合いが行われました。それぞれの病院の特色は違いますが、一人の患者様に何が出来るのかということを真剣に話し合い発表することができました。研修終了後のレポートでは、事例検討は普段同じ立ち位置の職員が自分と同じことを考えたり、逆にそんな考えもあるのだと気づかされることで充実した研修であったとの意見が多く聞かれ、一定の研修の効果が各職員に表れてきたことで、部署目標の達成につながることができました。

本年度からは新人から5年目までの職員に焦点を当て、実施しています。自分と相手の身体を知り、それをケアにつなげられるような研修を行っています。「職業倫理」「解剖学2回」が終了し、現在は「バイタルサイン」について学んでおり、「疾患について」を今後予定しています。継続は力なり、を信じ、今後も積極的に取り組んでいきたいと考えています。

生田病院

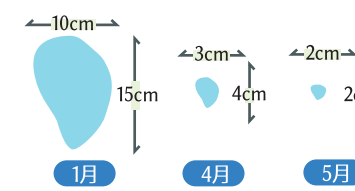
Challenge!!

褥瘡の患者さんへの栄養管理の見直し

アピール
ポイント 栄養科

褥瘡に対する勉強会の実施に伴い、褥瘡の患者さんへの栄養管理の見直しを行いました。例として、病棟からの相談があった61歳男性患者。1月時に仙骨部10cm×15cmの褥瘡がみられ、喫食状況は貧血ミキサー食から経管栄養の状態でした。食事量及び経口補助食品の見直し(経管栄養にCP10を追加)をしたところ、4月では3cm×4cmとなり、5月には2cm×2cmと大幅に回復しました。また喫食状況も常食(米飯大盛)に戻りました。看護ケアの効果をあげるためにも適切な栄養管理が必要となります。今後は病棟と協力し、患者さんの回復に向け尽力していきます。

褥瘡の回復の経過

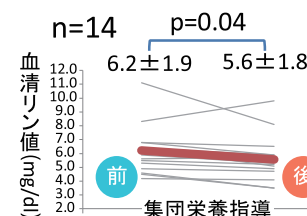


村上記念病院

Challenge!!

透析患者さんを対象に集団栄養指導を実施

生産性
向上 栄養科



栄養科では、部署別目標として透析室と連携し、透析患者さんを対象とした集団栄養指導を開催しました。今回が3回目の開催で、患者さん同士での交流も図ることができるようになりました。第3回目のテーマは「すぐにできる!リンを上手に減らす工夫」です。「リン」とは栄養素の1つで、あまり馴染みがない栄養素ですが、人間にとって骨の構成成分、細胞の構成成分、身体を動かすエネルギーの基となる重要な栄養素です。しかし、透析患者さんにとっては、リンを摂り過ぎると動脈硬化や骨をもろくする原因になってしまいます。その為、透析患者さんでは、リンの摂り過ぎに気を付ける必要があります。透析患者さん14名を対象に集団指導前後で血清リン値を比較したところ、平均6.2mg/dlから5.6mg/dlに有意な低下が認められました。(血清リン値の基準は3.5~6.0mg/dl)

また、参加された透析患者さんからは、参考になったとの声が多く聞かれ、またこのような機会を作って欲しいとの声も頂きました。今後も、分かりやすい情報提供を実施し、患者さんのお役に立てるよう、努めてまいります。

